

法 学 第 1030 号

平成 29 年 2 月 20 日

各 私 立 学 校 長 様
(小・中・高・特)

岩手県総務部法務学事課私学・情報公開課長

平成 29 年度道徳指導者養成研修（ブロック別指導者研修）の実施について
このことについて、別添のとおり通知がありましたので、お知らせします。

なお、参加を希望される場合は、別紙「推薦名簿」に必要事項を記入のうえ、平成
29 年 4 月 21 日（金）までに当課宛て提出願います。

また、期限までに提出がない場合は希望なしとして取り扱うこと、応募状況によって
は希望に添えない場合があることを申し添えます。

【担当】私学振興担当 中村

電話 019-629-5041 FAX019-629-5049

メールアドレス：AH0007@pref.iwate.jp

独教事教第12号
平成29年2月13日

各都道府県知事
殿
附属学校を置く各国立大学法人の長

独立行政法人教員研修センター
理事長 高岡 信



平成29年度道德教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）の
実施について（依頼）

日頃から、独立行政法人教員研修センターの研修事業に御協力いただき、誠にありがとうございます。

標記の研修につきまして、別添の実施要項に基づき実施することといたしました。

つきましては、受講者の推薦がある場合は、別添の実施要項中「5受講者(3)推薦手続」によらず、期限までに、別紙「推薦名簿」を電子メールにて下記宛に御提出ください（各ブロックごとに推薦期限が異なるので御留意願います。）。実施要項、推薦名簿等は、当センターホームページ（<http://www.nctd.go.jp>→センターが行っている研修→指導者養成研修→喫緊の教育課題に対応する指導者養成研修→道德教育指導者養成研修）よりダウンロード可能となっております。

また、本研修は、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的としております。貴職におかれましては本研修の目的を御理解の上、適切な方を御推薦いただくとともに、受講者の成果活用に御配慮いただきますよう、よろしく申し上げます。受講者には、研修終了1年後に成果活用状況について調査することとしております。

【本件連絡先】

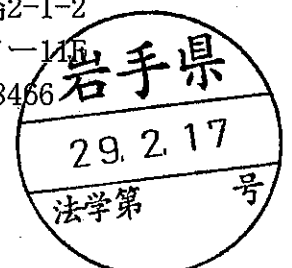
独立行政法人 教員研修センター
事業部 教育課題研修課 教育課題第二グループ
(堀田、横澤、大岩)

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

学術総合センター11F

TEL 03-4212-8464 FAX 03-4212-8466

E-mail: kyouiku2-1@nctd.go.jp



平成29年度道徳教育指導者養成研修(ブロック別指導者研修)

～道徳教育推進教師の育成に向けて～

実施要項

1 目的

道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、「特別の教科道徳」の実施に向けた指導と評価、魅力的な教材の活用、実践活動や体験活動の推進等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。

2 主催 独立行政法人教職員支援機構、実施県教育委員会

3 共催 文部科学省

4 期間等

ブロック名	実施県教育委員会	実施期間	会場	都道府県
北海道・東北ブロック	岩手県教育委員会	平成29年 8月28日(月) ～8月30日(水)	ホテルメトロポリタン盛岡 〒020-0034 岩手県盛岡市盛岡駅前通1番44号	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東・甲信越ブロック	長野県教育委員会	平成29年 8月7日(月) ～8月9日(水)	ホテル信濃路 〒380-0936 長野県長野市中御所岡田町131-4	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海・北陸ブロック	三重県教育委員会	平成29年 10月25日(水) ～10月27日(金)	三重県総合文化センター 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234	富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿ブロック	奈良県教育委員会	平成29年 8月2日(水) ～8月4日(金)	ホテルリガール春日野 〒630-8113 奈良県奈良市法蓮町757-2	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国・四国ブロック	島根県教育委員会	平成29年 8月16日(水) ～8月18日(金)	サンラポーむらくも 〒690-0887 島根県松江市殿町369番地	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄ブロック	大分県教育委員会	平成29年 10月10日(火) ～10月12日(木)	別府国際コンベンションセンター(B-CON PLAZA) 〒874-0828 大分県別府市山の手町12番1号	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

5 受講者

(1) 受講資格

教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者

小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントの推進する指導者としての活動を行う者

当機構の修了証書をもって単位認定を行う(予定を含む)教職大学院の学生

(2) 推薦人数

各都道府県(中核市分を含む。)においては12名以上、各指定都市においては8名以上とする。また、各都道府県知事部局所管及び附属学校を置く各国立大学法人、市町村立及び学校組合立を置く各市町村及び学校組合教育委員会、教職大学院を設置する各国立大学法人、教職大学院を設置する各私立大学については、推薦人数を設けない。

なお、小学校部会、中学校部会、高等学校部会を受講する人数比が概ね2:2:1となるよう各都道府県教育委員会等が調整の上、推薦を行う。

(3) 推薦手続

各都道府県・指定都市教育委員会において、「研修情報登録システム」により、下記期限までに推薦を行う。

なお、当該ブロック以外の受講を希望する者がいる場合は、独立行政法人教職員支援機構に連絡する。

《各ブロックごとの推薦期限》

①北海道・東北ブロック、②関東・甲信越ブロック、③東海・北陸ブロック、④近畿ブロック、
⑤中国・四国ブロック、⑥九州・沖縄ブロック

上記①②④⑤ …… 平成29年 4月28日(金)まで

上記③⑥ …… 平成29年 7月 7日(金)まで

(4) 受講者の決定

受講者については、実施県教育委員会と独立行政法人教職員支援機構が協議の上、決定する。

6 研修内容

別紙「基本日程表(案)」のとおりとする。演習や協議については、20名の単位(ユニット)を基本として取り組む。

7 演習の内容及び課題

(1) 「演習1(小中高合同)」

(内容) 道德教育の充実に向けては、学校が目指す子供像を明らかにして道德教育の重点目標を全体計画に明記するとともに、指導内容の重点化を図り、学校の教育活動全体を通じて計画的、発展的に具体的な指導をすることが重要である。

そこで、各学校における道德教育の全体計画に示されている道德教育の重点目標に基づき、重点化した指導内容を各教科等の授業でどのように指導するのか具体例をあげ、小中高合同のグループで情報交換するとともに、課題を共有する。

(課題) 各教科等で行う道德教育については、学習指導要領解説総則編(平成27年7月)に以下のような記述がある(小・中共通)。

学校における道德教育は、道德科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる。各教科等でどのように道德教育を行うかについては、学校の創意工夫によるところであるが、各教科等は、各教科等の目標に基づいてそれぞれに固有の指導を充実させる過程で、道德性が養われることを考え、見通しをもって指導することが重要である。

各教科等の指導を通じて児童(生徒)の道德性を養うためには、教師の用いる言葉や児童(生徒)への接し方、授業に臨む姿勢や熱意といった教師の態度や行動による感化とともに、次のような視点が挙げられる。

- ① 道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わり
- ② 学習活動や学習態度への配慮

上記を踏まえ、学校や地域の実情、児童生徒の実態等を基に、道徳教育を推進する上でどのように重点目標を定め、どのような重点内容項目に基づいて具体的な指導を展開するのかを、各教科等（道徳の授業を除く）の学習指導案（略案）にまとめる。

なお、管理職及び指導主事等、現在授業を行っていない場合は、特定の校種、教科、学年を想定して学習指導案を作成する。

また、各教科等の学習指導案を作成するに当たっては、当該教科の特質を損なうことがないように留意する。

事前に【様式1（A4判タテ1頁以内）】を作成し教職員支援機構に提出するとともに、グループ配付用に研修当日に必要な部数を持参する。

（※提出期限、提出方法等は下記（4）を参照のこと）。

（当日持参）

- 事前に作成し、教職員支援機構に提出した【様式1（A4判タテ1頁以内）】をグループ配布用に研修当日に必要な部数を持参する。
- 自校または域内の学校（任意）における具体的な教育実践に生かせるように作成した「全体計画（指導の内容及び時期を整理したもの等を含む）」をグループ配付用に研修当日に必要な部数持参する。
- 自校または域内の学校（任意）における「年間指導計画（任意の学年1種類）」をグループ閲覧用に研修当日に必要な部数を持参する。

（2）「演習2」

＜小・中学校部会（小・中別）＞

（内容）主催者が指定する読み物教材を利用した「道徳の授業」の学習指導案を作成し、部会内で発表を行う。全班的発表終了後、班ごとに振り返りを行い、理解を更に深める。

（課題）学習指導要領（平成27年3月27日）において、「道徳の授業」における指導に当たっては、次の事項に配慮することが求められている。

- ① 校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する。
- ② 道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行う。
- ③ 児童（生徒）が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫する。
- ④ 自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実する。
- ⑤ 指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する。
- ⑥ 児童（生徒）の発達段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まつつ、情報モラルに関する指導を充実、社会の持続可能な発展（科学技術の発展と生命倫理との関係）などの現代的な課題の取り扱いにも留意する。
- ⑦ 家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図る。

これらのうち、指導の工夫や改善を試みた事例について整理するとともに、児童生徒の変化や変容をどのように捉えているかなど、評価への取組についても記載する。

上記を踏まえ、「わたし(私)たちの道徳」に掲載されている読み物教材のうち、受講者決定時に指定する読み物教材から、任意の1教材を選び、事前に【様式2(A4判タテ2頁以内)]を作成し、教職員支援機構に提出するとともに、グループ配付用に研修当日に必要な部数を持参する(※提出期限、提出方法等は下記(4)を参照のこと)。

(留意点)「道徳の授業」の特質を踏まえ、創意工夫を生かした授業構想の具体的な在り方等について整理すること。

(当日持参)

- 事前に作成し、教職員支援機構に提出した【様式2(A4判タテ2頁以内)]をグループ配布用に研修当日に必要な部数を持参する。
- 事前に作成した【様式2(A4判タテ2頁以内)]の電子データをUSBメモリに保存し、研修当日に持参する。

<高等学校部会>

(内容) 学習指導要領において、指導計画の作成に当たって配慮すべき事項として、「全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること。」とされている。そこで、全体計画等の作成を通して、持参資料をもとに道徳教育の全体計画の見直しや各教科、総合的な学習の時間、特別活動における展開方策についての検討を行い、各グループから発表を行う。

全体計画の見直しに当たっては、学校における道徳教育活動の基本方針や重点目標を明確にするとともに、各教科、総合的な学習の時間、特別活動の特質に応じた、道徳性の育成に資する項目を含めて検討する。

(課題) 上記内容で協議を行うための資料を作成し、事前に教職員支援機構に提出するとともに、グループ配付用に研修当日に必要な部数持参する。【様式3(A4判タテ2頁以内)](※提出期限、提出方法等は下記(4)を参照のこと)。

高等学校学習指導要領第1章第1款の2に記載されている「人間としての在り方生き方に関する教育」について、例えば、学校としての指導の重点や方針を明確にした全体計画や年間指導計画の作成・活用、効果的な体験活動の工夫、全教職員や保護者・地域の人々の理解の促進及び連携協力体制の工夫などの中から、学校全体の取組やその取組に当たっての課題について整理する。

(当日持参)

- 事前に作成し、教職員支援機構に提出した【様式3(A4判タテ2頁以内)]をグループ配布用に研修当日に必要な部数持参する。
- 自校または域内の学校における、具体的な教育実践に生かせるように作成した「全体計画(指導の内容及び時期を整理したもの等を含む)」をグループ配付用に研修当日に必要な部数持参する。
- 作成した「全体計画(指導の内容及び時期を整理したもの等を含む)」の電子データをUSBメモリに保存し、研修当日に持参する。

(3) 「演習3 (小中高合同)」

(内容) 研修成果の全体を理解するとともに、その生かし方について理解を深める。

(課題) 今後各県・各地域において、研修成果の波及を行う際の研修企画づくりをとおして、本研修を振り返り、研修成果をまとめ、協議し発表を行う。

(当日持参)

- 研修企画づくりに当たって、事前に企画・運営講師としての活動が決定している場合は、これらに係る資料(目的、対象者、内容等)を1部持参すること。

(4) 演習用資料(事前提出課題)について

① 演習用資料(事前提出課題)の作成について

演習の協議資料として、上記「7 演習の内容及び課題」のとおり、事前に課題を作成すること。

《小中高合同》 様式1 (A4判 タテ 1頁以内)

《小・中学校部会》 様式2 (A4判 タテ 2頁以内)

《高等学校部会》 様式3 (A4判 タテ 2頁以内)

また、上記「7 (1)『演習1 (小中高合同)』」、「7 (2)『演習2』(高等学校部会)」の記載にあるとおり、全体計画等の当日持参があるので留意すること。加えて、資料の作成に当たっては、著作権等に留意すること。

② 演習用資料(事前提出課題)の提出について

提出期限、提出方法、指定する資料等については、受講者決定時に別途連絡する。

8 その他

(1) 所定の課程を修了した者には、修了証書を授与する。

(2) 本研修終了後、受講者アンケート等を行う。

また、研修終了から一定期間(約1年)経過後に、研修成果の活用について、受講者に対するアンケート調査を行う。

(3) 当日持参するもの

① 印鑑(出席簿押印のため)

② 小・中学校学習指導要領解説―道徳編―(平成27年7月) 又は 高等学校学習指導要領解説―総則編―

②については、小中高のいずれか

③ 演習で使用する資料(上記7 (1)『演習1 (小中高合同)』、(2)『演習2』を参照)

④ USBメモリ(作成した事前課題等の電子データを保存して持参。)

(4) 研修初日の受付の際、演習1で使用する全体計画については、持参した部数の中から受講者決定時に指定する部数を提出すること。

なお、資料右上に受講者番号、氏名を記載の上提出すること。(それ以外の部数については、演習グループ内配付用とする)

(5) 本研修を受講するに当たり、下記の資料が参考となる。

① 「小・中学校学習指導要領解説―道徳編―(平成27年7月)」又は「高等学校学習指導要領解説―総則編―」

② 「わたし(私)たちの道徳」… 小・中学校部会受講者のみ

(別添)

③ 『「わたし(私)たちの道徳」活用のための指導資料』… 小・中学校部会受講者のみ

④ 「道徳読み物資料集」… 小・中学校部会受講者のみ

②と③は、以下のとおりとすること。

○ 小学校部会の受講者は、小学校1・2年、小学校3・4年、小学校5・6年の3冊の中から、1冊を選び、その1冊(『わたし(私)たちの道徳』活用のための指導資料を含む)を持参

○ 中学校部会の受講者は、中学校用の「わたし(私)たちの道徳」及び『わたし(私)たちの道徳』活用のための指導資料を持参

(6) 宿泊の手配等については、各自で行う。

(7) 施設の有料駐車場は台数の限りがあるため、できるだけ公共交通機関を利用する。

(8) 教職員支援ポータルサイト「つくばの森・Tネット」は、受講者決定通知に同封されている「システム利用通知書」のID・パスワードでアクセスすることができる。

平成29年度道徳教育指導者養成研修(ブロック別指導者研修)

基本日程表(案)

9:00	9:20	9:50	11:20	11:30	12:30	13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	17:00
第1日目	受付	開講式 オリエンテーション	行政説明 「道徳教育の抜本的充実に向けて」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官	講義1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 ◎目的:学習指導要領の趣意を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解を深める	図鑑鑑賞(林義典)	講義1 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題—情報交換・課題の共有—」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 ◎目的:実践事例から、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の推進上の課題をもつ	事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の実践と課題」 小学校: 中学校: ◎目的:具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	17:00			

9:00	10:00	10:10	11:40	12:40	15:30	15:40	17:00
第2日目	小・中学校部会 講義(小中①) 「『特別の教科 道徳』の実施に向けた指導と評価」 ◎目的:『特別の教科 道徳』の光臨に向けた指導方法と評価について理解する。	講義(小中②) 「『道徳の授業』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 ◎目的:『道徳の授業』について理解を深め、授業改善への理解を深める	図鑑鑑賞(林義典)	講義2 「子供の心に響く道徳教育の実践—学習指導者の作成・検討—」 <指導助言者>	図鑑鑑賞(林義典)	事例発表・協議 「『道徳の授業』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 ◎目的:『道徳の授業』について理解を深め、授業改善への理解を深める	17:00
9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	15:30	15:40	17:00
高等学校部会	講義(高校) 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ◎目的:高等学校における道徳教育の在り方について理解を深める	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 高等学校: <指導助言者>	図鑑鑑賞(林義典)	講義2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践—全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協議—」 <指導助言者>	図鑑鑑賞(林義典)	事例発表・協議 「『道徳の授業』の充実を図るために」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 ◎目的:『道徳の授業』について理解を深め、授業改善への理解を深める	17:00

9:00	10:30	10:45	12:30	13:30	15:00	15:15	
第3日目	受付	講義2 「実践活動や体験活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 ◎目的:道徳的実践の取組活動としての特別活動の実践から、特別活動の特質を生かした道徳教育の展開や役割について理解する	図鑑鑑賞(林義典)	講義3 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 ◎研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の生かし方について理解を深める	閉講式	講義3 「道徳教育の充実を図るリーダーとして」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 ◎目的:各地域で道徳教育推進教師を育成するため、道徳教育に関する課題を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	15:15

<演習 1 ワークシート> 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（道徳教育指導者養成研修）

演習 1 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題－情報交換・課題の共有－」		都道府県等名		受講者番号	
所属 (学校名/教育委員会名)		職名		氏名	

あなたの学校では、どのような子供像を目指して道徳教育を推進していますか？	
道徳教育を推進する上でのポイントは何か？	
そのポイントは道徳のどのような内容と関わりがありますか？	
それがあなたの学校の重点内容項目です。これは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の重点でもあります！ それでは、重点内容項目に関わる指導を考えてみましょう！ 教科と学年、単元や題材などを想定してください。	
教科名	(校種 第 学年)
単元・題材名	
本時の目標 (道徳教育の視点)	
1時間の授業の中で、どのように道徳性を養うのが分かるような授業の流れを想定してください。このときに、教科の特質をしっかりと押さえましょう。	
指導の流れ	

- 注 1) A 4 判 1 頁以内とする。都道府県等名、所属、職名、氏名及び受講者番号を必ず記入すること。
 注 2) 事前に教職員支援機構宛てに提出する。
 注 3) グループ内配布用として、研修当日に必要な部数持参すること。

《様式 1 ワークシートの記入について》

<p>あなたの学校では、どのような子供像を目指して道徳教育を推進していますか？</p>	<p>※道徳教育の重点目標を記述する。 例) 豊かな情操と思いやりの心を育て、集団や社会の一員として自ら考え、進んで実践する態度を育てる。</p>
<p>道徳教育を推進する上でのポイントは何か？</p>	<p>※重点目標から指導のポイントを記述する。 例) 思いやり、集団の一員としての自覚</p>
<p>そのポイントは道徳のどのような内容と関わりがありますか？</p>	<p>※学習指導要領の道徳の内容を記述する(高等学校は中学校の内容を参照)。 例) 2-B [親切, 思いやり] [第3学年及び第4学年]、4-C [規則の尊重] [第3学年及び第4学年]</p>
<p>それがあなたの学校の重点内容項目です。これは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の重点でもあるのです！ それでは、重点内容項目に関わる指導を考えてみましょう！ 教科と学年、単元や題材などを想定してください。</p>	
<p>教科名</p>	<p>※教科名、校種と学年を記述する。 例) 国語科 (小学校第4学年)</p>
<p>単元・題材名</p>	<p>※単元名や題材名を記述する。 例) ごんぎつね</p>
<p>本時の目標 (道徳教育の視点)</p>	<p>※本時の目標(と道徳教育の視点を記述する)。 例) ごんが兵十に償いをしに行く様子を読んで、兵十への思いやりを深めていく様子を読みとる(ごんの気持ちを想像することで思いやりのよさや大切さを感じられるようにする)。</p>
<p>1時間の授業の中で、どのように道徳性を養うのが分かるような授業の流れを想定してください。このときに、教科の特質をしっかり押さえましょう。</p>	
<p>指導の流れ</p>	<p>※1時間の簡単な流れを記述する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ごんはどんな思いで、兵十にウナギのつぐないをしたのだろう</div> 2 第3章を読んで、ごんの思いをまとめる。 3 グループでそれぞれのまとめを発表し合う。 4 「ごんがどんな思いで兵十に償いをしようとしたのか」を学級全体で話し合う。 ★ ごんの兵十に対する思いやりで、いいなあと思ったことを発表し合う。 5 学習のまとめをする。

演習2「子供の心に響く道徳教育の実践－学習指導案の作成・検討－」		都道府県等名		受講者番号	
所属 (学校名/教育委員会名)		職名		氏名	

道徳学習指導略案（○学校第○学年）

- 1 主題名 ○○○○○○○○ 道徳の内容○－(○)○○○○
- 2 資料名 ○○○○○○○○ (出典：文部科学省「わたしたちの道徳」)
- 3 ねらい ○○○○○○○○……
○○○○○○○○○……
- 4 主題設定の理由（指導観）
 - (1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）
○○○○○○○○○○○○○○○……
○○○○○○○○○○○○○○○……
 - (2) 児童生徒の実態について（児童生徒観）
○○○○○○○○○○○○○○○……
○○○○○○○○○○○○○○○……
 - (3) 教材について（教材観）
○○○○○○○○○○○○○○○……
○○○○○○○○○○○○○○○……
- 5 本時の展開

※紙幅が狭いので、児童生徒の実態、資料の捉えや指導上の主な工夫等を中心に、簡潔に整理してください。
※学習指導略案は、USBメモリ保存し、研修当日に持参すること。

	学 習 活 動（発問と予想される子供の意識）	指 導 上 の 手 立 て と 評 価
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>※表枠組みの項目立て等は、本枠を参考に、各グループ又は各自でお考えください。 なお、指導の一部をクローズアップした記述も可です。</p> </div>	

	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○

6 本時の評価

※本項目を置くか置かないかは自由です。

注) A4判2頁以内とする。都道府県等名、所属、職名、氏名及び受講者番号を必ず記入すること。

平成29年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）

演習2「人間としての在り方生き方に関する教育の 実践－全体計画等の改善策・展開例の検討・発表・協 議－」		都道府県 等 名				受講者 番 号			
所属 (学校名/教育委員会名)		職名		氏名					
<p>●高等学校学習指導要領第1章第1款の2に記載されている「人間としての在り方生き方に関する教育」について、例えば、学校としての指導の重点や方針を明確にした全体計画や年間指導計画の作成・活用、効果的な体験活動の工夫、全教職員や保護者・地域の人々の理解の促進及び連携協力体制の工夫などの中から、学校全体の取組やその取組に当たっての課題について整理する。</p>									

- 注1) A4判2頁以内とする。都道府県等名、所属、職名、氏名及び受講者番号を必ず記入すること。
注2) グループ内配布用として、研修当日に必要な部数を持参すること。
注3) 本資料に加え、必ず必要部数分の全体計画を研修当日に持参すること。
注4) 全体計画はUSBメモリに保存し、研修当日に持参すること。

平成29年度道徳教育指導者養成研修(ブロック別指導者研修)
推薦名簿

〇〇〇ブロック

(都道府県市等名)

推薦 順位	氏名	フリガナ	年齢 (※注1)	性別	所属			所属機関種別 (※注3)	希望部会 (学校種) (※注4)	電話番号	経験年数 (※注5)	備考
					名称	職名 (※注2)	郵便番号					
<記入例>												
1				<input type="checkbox"/>	□□□教育委員会□□ 課	指導主事	000-0000	〇〇市〇〇 〇-〇-〇〇	小	00-0000-0000	3年	
2				<input type="checkbox"/>	□□市立□□小学校	校長	000-0000	〇〇市〇〇 〇-〇-〇〇	小	00-0000-0000	2年	
3				<input type="checkbox"/>	□□市立□□中学校	教諭	000-0000	〇〇市〇〇 〇-〇-〇〇	中	00-0000-0000	0年	
4				<input type="checkbox"/>	□□□教育センター□□ 課	□□主事	000-0000	〇〇市〇〇 〇-〇-〇〇	高	00-0000-0000	4年	
5				<input type="checkbox"/>	□□□大学大学院	学生	000-0000	〇〇市〇〇 〇-〇-〇〇	高	00-0000-0000	1年	

担当者氏名	担当者電話番号
担当者フリガナ	担当者住所
担当者所属	e-mailアドレス

- 注1) 年齢は、平成29年4月1日現在で記入してください。
- 注2) 教職大学院の学生に当たっては「職名」欄には、「学生」と記入してください。
- 注3) 教職大学院の学生に当たっては「所属機関種別」欄には、「大学院」と記入してください。
- 注4) 「希望部会(学校種)」欄には、所属を希望する「小」、「中」、「高」のいずれかの学校種を記入してください。
- 注5) 小・中学校に当たっては「経験年数」欄には、道徳教育推進教師の経験年数を記入してください。(1年未満の場合は0年と記載) 指導主事等、管理職の方は、以下のうち、(1)又は(2)に該当する年数を記入してください。[(1)+(2)の両方記載することも可](1年未満の場合は0年と記載)
 - (1)小・中学校に当たっては、道徳教育推進教師の経験年数。
 - (2)教育委員会等で道徳教育に関する業務を担当した年数。

※この名簿は、本研修への受講者推薦に際し、都道府県市等が使用するものであり、それ以外の目的で使用しません。